

# 混合堆肥複合肥料の開発と普及 JA全農いばらきの取り組み



「サステナミライZ」を施用した  
ハクサイ畠



## 「サステナミライZ」

**混合堆肥複合肥料 「サステナミライZI」を開発**

「サステナミライZI」の開発の背景について、A全農いばらき生産資材部肥料農業課川田護課長は、「肥料価格の高騰分を農家が生産した農産物の価格に転嫁できればよいのですが、現実的にはなかなか転嫁が難しく、農家の手取り確保のため生きがあつた。その後、令

産コスト低減に貢献することが大きな目的です」と話す。

肥料価格が大きく値上がりしたことをきっかけに、一部の農家では「肥料が入手できなくなるかも知れない」という状況に陥り、確保に走った動きがあった。その後、令

これまでと比べて量が高く、肥料の取り扱いは前年対比約5%で「農家の皆さんほどまでよりも使っていくか」と推測する。

肥料全体の取り扱いを減らしているのではなく、肥料の取り扱いが下がり、続く春肥も再び値下がりしたが以前と比べるとまださほどではない。肥料全体の取り扱いは前年対比約5%で「農家の皆さんほどまでよりも使っていくか」と推測する。

肥料全体の取り扱いを減らしているのではなく、肥料の取り扱いが下がり、続く春肥も再び値下がりしたが以前と比べるとまださほどではない。肥料全体の取り扱いは前年対比約5%で「農家の皆さんほどまでよりも使っていくか」と推測する。

**「サステナミライZI」**

**地域循環を幅**

でも仙格も高騰まだいもか減の取の15%これ量はなはな25%と増加して川田課長は「農家の肥を活用した経営トしている傾向が話し、「今後の動視しながら、組合心して農業経営をもらえるようななをすすめているう。」JA本部を

福広い農家で  
米産地に合わせ設  
ては種る。鶏ふん豚ぶ  
かあるふん競走馬田来  
らうる。

比1 言堆

「いふ。  
おのなか  
おん堆  
にシフ  
ある」  
さも注  
員に安  
続けて  
り組み  
」とい  
う。

意する必要はない。  
堆肥を活用すれば、チツソ pH・ECの変化して、作物の成分を吸収し、肥料価格と合わせて、効果を高めることで、肥料価格と合わせて、効果を高めることで、効率的に肥料を供給する。サステナブルな農業を実現するためには、保証成分は、リン酸の使用量を減らすことが重要である。

県内の用した肥料は、農家からも、地の実態を考慮することによって、露地野菜の肥料として、20 kg 1袋と計算して、肥料コストにチツコにチツコに計算した。また、成分を減らすことを抑えるため、低P過剰施肥の貢献であります。

豚ふん堆肥に幅広く使  
料を地域循  
りに合わせて  
たり、特  
作付けが多  
にした。  
菜用に使わ  
は、チツソ  
が多く、こ  
でチツソ量  
はしやすい、  
トを下げる  
成分は12%  
るものとし  
る』こと『  
Kタイプに  
とコスト抑  
る』こと『

農業の肥料化は、現在最も注目される問題である。肥料化の目的は、土壤の肥力回復と地力の持続化である。しかし、過剰な施肥は、土壌の酸化や水質汚染を引き起こす可能性がある。したがって、適切な施肥量と施肥方法の選択が重要となる。

ピールし、  
広がりを見

大規模化する農家が、堆肥複合肥料を実験評価がされてい

（ナミコ）  
だく農家  
作と使い  
果を感じ  
「恋う」と切  
ことを期待  
と  
提案  
と  
料は物流  
れる場合  
茨城県内  
JA自ら行  
外部に  
ところな  
がある。  
らJAの  
生産者倉  
響されに

い堆肥と、肥料やオガ粉を混合して堆肥にする。堆肥は、堆肥の中では「堆肥」と呼ばれる。堆肥は、堆肥の中では「堆肥」と呼ばれる。堆肥は、堆肥の中では「堆肥」と呼ばれる。

肥料と混合でイコールにならぬかと、農家が使う肥料を混ぜて発酵させ、それを撒く。これが「糞肥」だ。

語 じ病たのまる の な脳うずく留まつ

**県内畜産堆肥活用で輸入原料依存低減  
価格抑制、安定供給で持続的な農業に**

令和3年の肥料の原料価格高騰を受けて、国内にある肥料資源の有効活用や地域資源循環の取り組みが活発になり、全農も各県で開発と普及を進めている。JA全農いばらきは茨城県内の養豚農家から得られる豚ふん堆肥を活用したJAグループ茨城オリジナルの混合堆肥複合肥料「サステナミライZI（ゼットワン）」を朝日アグリア株と共同開発し、令和5年度から県内JAを通じて本格的な普及に取り組んでいる。

A black and white portrait of Taro Yamada, the president of KDDI. He is a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket over a light-colored shirt. The portrait is set within a circular frame.

ライミーの開発を始めた」と、もう一つの目録を説明する。

A black and white photograph showing a massive stack of white sacks, likely fertilizer bags, piled high in a large industrial warehouse. The sacks are arranged in several tall, narrow stacks. In the foreground, one sack is prominently displayed, featuring a vertical label with the text "サステナミライ ZI" and a small illustration of a cat. The background shows the interior of a warehouse with a high ceiling and metal beams.

庫まで直接運ぶ仕組みを一部で導入している。また、「銘柄をまとめる」と「効率よく運びやすくなるため、取り扱い数量が多い銘柄は、50袋や60袋単位でパレット1枚にまとめて運ぶ取り組みを始めた」と説明する。また、堆肥を混合する肥料の開発・品揃え拡大にも課題がある。

表半 八る ひに お量 うご